

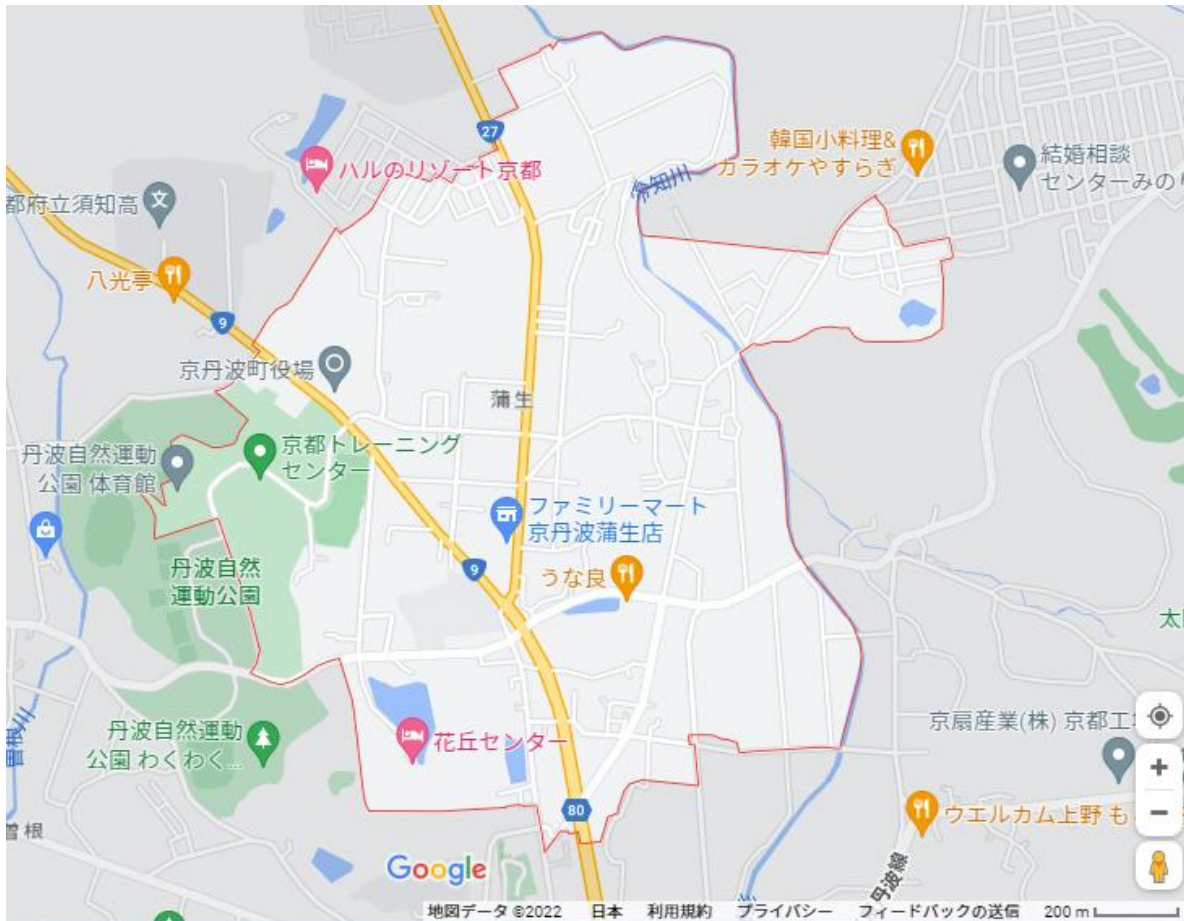
蒲生

須知盆地の真ん中あたり、国道9号と国道27号の合流点の交通の要衝。

美女山の西麓を北流する須知川西岸の村。川沿いに水田が広がるが、村の西部は広大な高原をなしている。平坦な土地だが黒味がかかった酸性土壌(黒ぼく)におおわれているため農業用地に適さず、原野のまま残存していたという、村の西半は蒲生野と称される。原野には小沼が散在するようで、その菰や蒲の生い茂る原野という意味かという。

蒲生村は、江戸期～明治22年の村。亀山藩領。明治4年、亀岡県を経て京都府に所属。戸数は同5年、蒲生村18、下蒲生村51。のち両村は合して旧に復し、同21年の戸数77。同22年、須知村の大字となる。

蒲生は、明治22年～現在の大字名。はじめ須知村、明治34年須知町、昭和30年から丹波町の大字、平成17年からは京丹波町の大字。



▼小字一覧

古井 川ノ尻 三ツ口 念仏堂 伏拝 梅ノ木 芝ヶ鼻 蒲生池 北垣内 堂ノ庭 南垣内 堂ノ上 古池 長田 沢田 坊ノ下 大仙坊 前野 八ツ谷 清水元 大下 森ノ奥 東蒲生 西蒲生 野口 蒲生野

▼蒲生の人口・世帯数（令和4年4月末現在）

行政区	【世帯数】			【男】		【女】		【計】					
	日本人	外国人	複数	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人				
1214 蒲生	169	1	1	171	185	0	185	222	2	224	407	2	409